

平成 18 年第 1 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する 検討会 議事要旨

日時：平成 18 年 7 月 10 日（月） 14:00～16:00

場所：経済産業省別館 9 階 第 944 号会議室

出席委員：有田芳子、井上達、岩本公宏、上路雅子、北野大、小出重幸、崎田裕子、
佐藤洋、鈴木継美（座長）、高橋道人、立川涼、遠山千春、渡邊信
オブザーバー：青山博昭、江藤千純、鑑迫典久、戸笈修、川嶋之雄
事務局：滝澤環境保健部長、上家環境安全課長、北窓リスク室長 他

議題：

- (1) 作用・影響評価結果について
- (2) 国際協力事業について
- (3) リスクコミュニケーションの推進について
- (4) 基盤的研究の推進について
- (5) 野生生物の生物学的知見収集について
- (6) その他

議事要旨：

会の冒頭にて、野生生物の生物学的知見研究の座長に、故大島康行前座長に替わり新たに筑波大学の渡邊信教授を任命。

- (1) 平成 14 年度選定物質 (p,p'-DDE) の魚類を用いたフルライフサイクル試験結果、平成 15 年度選定物質 (ケルセン) の哺乳類を用いた追加検査 (甲状腺の組織病理学的検査及び遺伝学的解析) 結果、試験対象候補物質に関する情報収集状況、魚類試験体系の合理化についての検討状況、哺乳類試験法に関する情報収集状況、両生類と無脊椎動物についての試験法開発状況、について報告・説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・ 魚類を用いた p,p'-DDE のフルライフサイクル試験結果のまとめについて、POPs モニタリング調査によって測定された水中濃度の最高値 $0.00076 \mu\text{g/L}$ は本試験結果から推定された無影響濃度 $0.0296 \mu\text{g/L}$ を下回っており、現実的なリスクが低いという点を明記しておいた方がよい。
- ・ ケルセンの哺乳類を用いた追加検査に関して、単に Wistar Hannover 系で甲状腺に組織学的変化が出たというのではなく、Wistar Hannover/GALAS 系に自然発生する特異病変であることから Wistar Hannover/GALAS 系と特定しておいて欲しい。
- ・ 内分泌かく乱研究は最近ではシステムズ・バイオロジー、あるいはそのための統計学、それらとリンクした研究を進めないとこの先進まないということがはっきりしている。そういったことも念頭において、本検討会の審議が行われるべき。
- ・ これから内分泌かく乱物質を疑われるものを含めて化学物質全般について総合的に評価をしていくということに関して、どのような形でこういった対象物質を

どのように系統的にちゃんとモニタリングすることが客観的なデータを得るうえで必要かという点について留意し、モニタリングとして使えるようなデータを作っていくことが大事。

(2) 平成 18 年度国際協力事業における O E C D への協力、日米二国間協力、日英共同研究、日韓共同研究について報告・説明が行われた。

(3) 平成 17 年度第 2 回リスクコミュニケーション推進検討会における推進事業、ホームページ、国際シンポジウム、野生生物観察事業について報告・説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・ 環境省のホームページと民間企業による請負のホームページの 2 つあってもよいが、環境省の基本的な政策、意見等、大事なことに関しては環境省のホームページで出し、民間企業ホームページで、民間企業のノウハウを活かして環境省の政策、意見等をわかりやすく説明するというスタンスであるべき。

(4) 平成 17 年度第 2 回及び平成 18 年度第 1 回基盤的研究企画評価検討会での審議内容報告が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・ 疫学研究手法の検討のための、文献検索に漏れがあるように思える。キーワードの見直し検討を含め、よく見て欲しい。

(5) 平成 18 年度第 1 回野生生物の生物学的知見検討会での審議内容、野生生物の生物学的知見研究課題、平成 18 年度生態系を把握するための野生生物の知見全国大会について報告・説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・ 野生生物の生物学的知見研究課題について、ある特定の化学物質あるいはあるグループの化学物質が何らかの影響を及ぼす結果がでたというときに、きちんとした相互関係が明確でないまま、惑わすような説明をされると困る。きちんとしたデータを積み重ねて、論理的な説明をお願いしたい。

(6) 平成 18 年度の E x T E N D 2005 における取組体制図について、内容は変わらないものの、配置を分かりやすく工夫し作成した旨の報告・説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・ E x T E N D 2005 の展開の中で、この検討会が 3 年先、5 年先の目標、方向性を持っておかないと、個々の検討会に対して何も意見を言うことができない。単なる報告会になってはまずいので、何らかの工夫が必要ではないか。今後の検討会の中でそういう方向性が少しずつ出てくればと期待している。
- ・ E x T E N D 2005 の 7 つの大きな政策の中で各検討会がどう具体的に進めていくのか。テーマとして優先度の高いもの低いものがあるだろうが、例えば 5 年後にはこの辺まで何とか解明しようといった方向の中で考えていただきたい。

以 上